

外務案「日本國中華民國間同盟條約案」
(昭和十八九七)ニ對スル意見

昭和十八 九 十八

外務案ハ「日華基本條約改訂要綱案」審議ノ經緯ヲ無視スルノ甚シキモノナルコト勿論ナルカ右ノ點ヲ別トスルモ本件條約改訂ノ主タル狙ヒヲ逸スルモノニシテ此ノ儘ノ内容ニテハ到底同意シ難シ。其ノ理由ヲ分説スレハ凡ソ左ノ如シ。

一、本件條約改訂ノ目的
(1)「大東亞政略指導大綱」ノ示ス所ニ依レハ本件條約改訂ハ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ圖ル爲ニ

大東亞省

大東亞省 (日本標準規格 B 5)

IMT 458

281

之ヲ行フモノニシテ又本件條約改訂ヲ含ム大東亞政略態勢ノ整備ハ特ニ支那問題ノ解決ニ資スルコトヲ目的トス。

而シテ「大東亞戰爭完遂ノ爲ノ對支處理根本方針」ハ日支提携ノ根本精神ニ則リ專ラ國民政府ノ政治力ヲ強化スルト共ニ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ圖リ眞ニ更新支那ト一戰戰爭完遂ニ邁進スルヲ以テ本體トシ右「根本方針」ニ於テ當初ヨリ既ニ之カ具現ノ一方策トシテ日華基本條約ノ改訂件モ考慮セラレアリ。今回「日華基本條約改訂要綱案」審議ニ當リテモ前記經緯ヲ篤ト考慮シ條約改訂ノ目的トシテ「對支處理根本方針」ヲ徹底具現シ以テ支那問題解決ノ爲ニ必要ナル政略態勢ヲ強化スルニ在リ

大東亞省

大東亞省 (日本標準規格 B 5)

IMT 458

282

ト明示セリ。

(四) 惟フニ對支處理根本方針ニ示サレタル國民政府ノ政治力強化ト重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ハ實質上表裏一體ノ關係ニ在リ。而シテ之ヲ我方政略施策ノ題目トシテ見レハ結局支那ノ自主獨立ノ確認ニ歸着ス。支那ノ自主獨立ノ確認ノ題目ヲ外ニシテ國民政府ノ政治力ノ強化ヲ企圖スルニ由ナク又重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ヲ期スルコト難シ。

大東亞省

IMT 458

283

(ハ) 前述ノ經緯及全般ノ情勢ヨリ見テ今次條約改訂ノ主タル狙ヒカ重慶抗日ノ根據名目ノ覆滅ニ存スルヤ必セリ。從テ此ノ狙ヒヲ逸スルトキハ本件條約改訂ノ意義ノ大半ハ滅却スルニ至ラン。素ヨリ條約改訂ノ施策ノミニ依リテ重慶力直ニ我方ニ轉向シ來ルコトヲ期待スルハ早計ニ失スヘシ。然レトモ他ノ環境條件就中軍事情勢ノ推移トモ相俟ツテ將來機熟スルトキ重慶ヲシテ息戰和平ヘ轉向セシムヘキ政略上ノ用意トシテハ早キニ及ンテ之カ因子ヲ蒔キ置カサルヘカラス。此ノ點ヨリ見ルトキハ本件改訂條約ノ内容ハ重慶側ヨリ見テ實質的ニ和平條件トシテノ魅力ナキ限リ重慶側ニ對スル政治的效果ハ初メヨリ之ヲ期待スルヲ

大東亞省

IMT 458

284

ニ之ト併行シテ對支政謀略ヲ愈々強化シ來ルヘシ。即チ重慶ニ對シテハ恐ラク主トシテ戰後ニ於ケル東亞處境ニ付支那ノ發言權ヲ大イニ認ムルコトヲ中核トスル考案ニ依リテ政略ノ手ヲ用ヒ重慶ヲ自家陣營ニ繋キ留ムル鐵鎖ヲ益々太クシ到底絶チ切ル能ハサルモノタラシメ延ヒテ南京ノ切崩ヲ策シ來ル公算少シトセス。仍テ我方トシテハ右米英側ノ對支政謀略ニ對抗シ早キニ臨ミテ之ヲ封殺滅殺スルノ手段ヲ講セサルヘカラス。此ノ見地ヨリ見テ本件條約改訂モ亦我政略手段トシテ右ニ資スルノ意義ナカルヘカラス。

（ハ）尙本件改訂條約ノ内容ヲ公正妥當ナルモノタラシメ之カ政略效

大東亞省

東京1730 (日本標準規格 B 5)

IMT 458

286

得ス。

（ニ）今後戰局ノ推移ニ伴ヒ支那大陸ニ於ケル情勢ハ深甚ナル注意ヲ要スルモノナル處假令夫レカ如何ニ惡化スル場合ト雖モ少クトモ和平地區カ全體的ノ破綻ヲ來スカ如キコトハ極力之ヲ防止セサルヘカラス。之カ爲ニハ政略的ニモ國民政府ノ國內政治上ニ於ケル立場ヲ出來得ル限り有利ニシ苟モ之カ土崩瓦解スルカ如キコトナキ様事前ノ手當ヲ怠ルヘカラス。此ノ點ヨリ見テ本件條約改訂ハ一面國民政府ノ國內政治上ニ於ケル立場ヲ有利ナラシムルニ資スルモノタルヲ要スヘシ。

（ハ）今後米英側ハ益々空軍基地トシテノ支那大陸ノ利用ヲ圖ルト共

大東亞省

東京1730 (日本標準規格 B 5)

IMT 458

285

果トシテ支那以外ノ大東亞地域ニ與フル影響及米英側ノ對日戰
 争ノ根據名目ノ剝奪トイフカ如キコトモ一應考ヘ得ラレサルニ
 アラサルモ實際問題トシテ右效果ノ點ヘ大ナル期待ヲ掛ケ得サ
 ルヘシ。

大東亞省

(ト) 敘上ノ觀點ニ立チテ外務案ヲ檢スルニ本件條約改訂ノ政略上
 ノ狙ヒヲ逸スル點尠カラス。即チ

- 1、右案ハ戰後ニ於ケル日支國交修復ノ確タル基準ヲ示ササ
 ルカ故ニ重慶側ヨリ見レハ何等和平條件トシテノ魅力アル
 モノナク却テ重慶トシテハ如何ナル要求條件ヲ持チ出サル
 ルヤモ知レストシテ大ナル不安ヲ抱クヘシ。
- 2、梅汪協定及日華基本條約成立ノ經濟ヨリ見ルニ支那側ハ
 「戰時中ハ兎モ角戰後ニ於テ日本側カ支那ニ對シ果シテ如
 何ナルコトヲ要求スルヤ其ノ限度ヲ示シテ實ヒ度シ右日本
 側ノ要求限度カ支那ノ獨立自主ト兩立スルモノナリヤ否ヤ

大東亞省

ニ依リテ自分達ノ使命ノ成否モ決スヘシトノ態度ヲ持シ來
 リ内國民ニ對シテハ一日ノ事變ハ重慶カ抗戰ヲ止メサル爲
 ニ存スルモノナルモ戰爭カ止ミサヘスレハ戰後ハ條約ニ揚ケ
 タル所ニ依リ事變ハ調整セラルヘシトノ趣旨ヲ以テ説明シ
 來レル處外務案ニ依レハ日華基本條約ハ廢棄セフルルモ之ニ
 代ルヘキ戰後ノ日支國交調整ノ確タル基準カ示サレ居フサル
 爲國民政府トシテハ戰時中ノ戰爭協力ノミ強ヒラレテ戰後ノ
 日支關係カ如何ニナルヘキヤニ付何等國民ニ説明スル材料カ
 ナクナリ其ノ國內政治上ニ於ケル立場ハ寧ろ現狀ヨリモ不利
 トナルニ至ルヘシ。尤モ外務案ニ依ルモ撤兵ノコトハ示サレ

大東亞省

IMT 458

289

居ルモ支那側ノ特ニ深キ關心ヲ有スルハ右撤兵問題ニ限ルニ
 非ス。
 8、今後木英側ノ打チ來ルヘキ對支政略ノ手ハ主トシテ戰後ニ
 於ケル東亞處理ニ於ケル支那ノ地位ニ關スルモノナルヘキコ
 ト前述ノ通りナル處外務案ニ依レハ本條約ハ原則トシテ戰爭
 終了ノ日迄ノ關係ヲ律スルモノナルカ故ニ戰後ノ日支關係カ
 如何ニ律セフルルモノナリヤ分明セス。右木英側ノ對支政略
 ニ對抗スル手段トシテノ意義稀薄ナリ。

大東亞省

IMT 458

290

290

2382

外務案同盟條約ノ本體的規定ト目スヘキ條項ハ大東亞戰爭完遂ノ爲ノ協力ニ關スル條項ナリ。然ルニ右ハ既ニ日華共同宣言トイフ歴タル條約ノ存スルアリ。今又何ノ理由アリテカ新ニ斯クノ如キ條約ヲ作ルノ要アリヤ到底不可解ナリ。基本條約トノ關係ヨリスルモ外務案ノ遣リ方ハ随分ヒドキモノニシテ斯クノ如キカ果シテ國家ノ威信ヲ保持スル所以ナルカ疑問ナルカ右共同宣言トノ關係ニ乘リテハ神聖ナルヘキ條約ヲ弄フモノナリトノ酷評ヲ受クルモ辨解ノ辭ニ窮スヘシ。

尙外務案ニ於テ一方ニ大東亞ノ建設及防衛ニ付テノ協力條項ヲ掲ケナカラ他方ニ於テ本條約ノ有効期限ヲ原則トシテ大東亞戰爭終

大東亞省

(東東1730) (日本標準規格 B-5)

IMT 458

292

2382

三 國內問題トシテノ考慮

特ニ支那問題ノ處理ニ當リテハ之カ實行ヲ確實ナラシムル爲ニハ複雑微妙ナル對內的考慮ヲ慎重ニスルノ要アルコト言フ俟タス。此ノ際日華基本條約ヲ廢棄シテ併モ之ニ代ルヘキモノカ外務案ノ如キモノナル場合之カ國內ニ與フル影響如何ヲ考フルトキ果シテ自備ヲ持チ續ヘキヤ。單ニ對支經濟施策ノ實行面ノミヨリスルモ其ノ現實ノ波動ノ重大ナルヘキハ之ヲ想像スルニ難カラス。況ンヤ所謂對支新政策ニ依リテ相當ノ衝擊ヲ受ケ居ル今日ノ事態ニ於テヲヤ。

三 既存條約トノ關係

大東亞省

(東東1730) (日本標準規格 B-5)

IMT 458

291

REEL No. A-1209

2382

四 結 語

了ノ日迄ニ限定セルヘ解シ難シ。

嬰スルニ外務案ヘ「同盟條約」ノ名ヲ追フニ急ニシテ強ヒテ之カ爲ニ其ノ内容ノ選擇ニ無埋ヲ押シ元來ノ本件條約改訂ノ主タル狙ヒヲ逸シ實際上ニ於テモ堅實味ヲ缺クモノト認メサルヲ得ス。「大東亞政略指導大綱」ニ「日華同盟條約ヲ締結ス」トアルモ條約内容ヘ改訂目的ニ照シ之ヲ決スヘキモノニシテ右内容検討ノ結果其ノ名稱ヲ變更スルノ必要アリト認メラルルトキハ所要ノ手續ヲ經テ之カ名稱ヲ變更シ飽ク迄本件條約改訂ノ政略目的ノ貫徹ヲ期セサルヘカラス。

大東亞省

IMT 458

293

秘 密

2382

292

日本國中華民國間友好同盟條約案

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ善隣トシテ緊密ニ相協力シテ大東亞政略指導大綱ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期ス

之カ障害タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ヲ茲ニ嚴肅ニ再確認ス

第二條

外務省

IMT 458

294

REEL No. A-1209

日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相
互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツツ各般ニ互リ互助敦睦ノ手段ヲ講ス
ヘシ

第三條
日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及防衛ノ爲相互ニ緊密ニ協力スヘ
シ

第四條
日本國及中華民國ハ互惠ヲ基調トスル兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ
行フヘシ

第五條
本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラル

外務省

ベシ

第六條
昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ
日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書ト共
ニ本條約及附屬文書ニ依リ代ヲルヘキモノトス

第七條
本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ
右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名
調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日
ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

外務省

296

2382

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ
 昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日
 ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

外務省

IMT 458 298

295

2382

附屬議定書
 本日日本國中華民國間條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通
 協定セリ
 第一條
 日本國ハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ハ兩國間ノ全般的平和克服シ
 戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ
 撤去スヘキコトヲ約ス
 日本國ハ清國義和團事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵
 權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス
 第二條
 本議定書ハ條約ト同時ニ實施セララルヘシ

外務省

IMT 458 297

REEL No. A-1209

298

2382

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國 年 月 日

ニ於テ

外務省

日本標準規格B5) IMT 458 300

299

2382

交換公文案

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ハ兩國間ノ全般的平和克服シ戰爭狀態終了シタルトキハ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セララルヘシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

外務省

日本標準規格B5) IMT 458 299

REEL No. A-1209

300

2382

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候
 右回答旁々本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日 二於テ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

302

299

2382

交換公文案
 (往翰)
 以書翰啓上致候本日附書翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候
 本日中華民国日本國間條約ヲ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ
 左ノ了解成立致候
 現ニ中華民國ニ存在セル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ
 調整ヲ要スルモノハ木東亞戰爭終了シタルトキ又ハ兩國間ノ全
 般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ本條約ノ趣旨ニ準據
 シテ根本的ニ調整セラルヘシ
 戰爭狀態繼續中ト雖情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國間ノ協議ニ依
 リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

301

REEL No. A-1209

極秘

2382

301

日本國中華民國友好同盟條約案

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ

兩國相互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シテ善隣トシテ緊密ニ協力シテ

本東亞之運命ヲ共ニ經營シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和

ニ貢獻センコトヲ期ス

之ヲ障礙タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通

協定セリ

第一條

昭和十一年一月九日及十二年一月九日

日本國及中華民國ハ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ヲ

茲ニ嚴肅ニ再確認ス

第二條

外務省

IMT 458

303

2382

302

日本國及中華民國ハ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相

互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シテ各般ニ互リ互助致敵ノ手段ヲ講ス

ル

第三條

日本國及中華民國ハ大東亞ノ建設及防衛ノ爲相互ニ緊密ニ協力ス

ル

第四條

日本國及中華民國ハ互ニ善隣トシテ兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ

行フベシ

第五條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官廳間ニ協議決定セラル

外務省

IMT 458

304

REEL No. A-1209

304

2382

附 属 議 定 書

本日日本國中華民國間條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通
協定セリ

第一條
日本國ハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ハ兩國間ノ全般的平和克服シ
戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ
撤去スルコトヲ約ス

日本國ハ清國統和國事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基テ駐兵
權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

第二條
本議定書ハ條約ト同時ニ實施セラルヘシ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

306

303

2382

第 五 條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ
日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書ト共
ニ本條約及附屬文書ニ依リ代ラルヘキモノトス

第七條
本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セラルヘシ

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名
調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日

ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

305

REEL No. A-1209

306

2382

交換公文案

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國關係約(署名スルニ當リ本
 ↑官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ
 調整ヲ要スルモノハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ハ兩國間ノ全
 般的平和克服シ戰爭狀態終了シタルトキハ本條約ノ趣旨ニ準據
 シテ根本的ニ調整セラルヘシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ
 依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

↑本官ハ閣下ニ於テ右了解ヲ確認セラレシトモトテ希望致候

外務省

IMT 458

308

305

2382

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日

ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

外務省

IMT 458

307

REEL No. A-1209

308

2382

交換公文案

(往翰)

以書翰啓上致候本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候
 本日中華民國日本國間條約ヲ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ
 左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在セル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ
 調整ヲ要スルモノハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ハ兩國間ノ全
 般的平和克復シ戰爭狀態終了シタルトキハ本條約ノ趣旨ニ準據
 シテ根本的ニ調整セラルヘシ

戰爭狀態繼續中ト雖情況之ヲ許スニ應シ逐次兩國間ノ協議ニ依
 リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

310

309

2382

↑ 本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國 年 月 日

ニ於テ

外務省

(日本標準規格B5)

IMT 458

309

REEL No. A-1209

310

2382

極
秘

日本國及中華民國友好同盟條約案

大日本帝國政府及中華民國國民政府へ

兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツツ緊密ニ協力シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ

之ガ障礙タル一切ノ禍根ヲ芟除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ昭和十八年一月九日即チ中華民國三十三年一月九日蘭印ノ戰爭完遂ニ付テノ協力ニ關スル日華共同宣言ヲ茲ニ嚴肅ニ再確認ス

第二條

日本國及中華民國ノ間ニハ永久ニ善隣友好ノ關係アルベク兩國ハ其ノ關係ヲ益々親厚ナラシムル爲相互ニ其ノ主權及領土ノ尊重ノ基礎

(日本標準規格B5)

IMT 458

312

外務省

309

2382

本使ハ茲ニ前記了解ヲ確証致儀

右同答旁々本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日 二於テ

(日本標準規格B5)

IMT 458

311

外務省

312

2382

右證據トシテ下名へ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名
 調印セリ

昭和 年 月 日 即チ中華民國 年 月 日

ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

外務省

(日本標準規格B5) IMT 458

314

311

2382

ニ於テ各般ニ亘リ互助救陸ノ手段ヲ講ズベシ

第三條

日本國及中華民國へ大東亞ノ建設及防衛ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目へ兩國當該官憲間ニ協議決定セラルベシ

第五條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約へ其ノ一切ノ附屬文書ト共ニ本條約及附屬文書ニ依リ代ラルベキモノトス

第六條

本條約へ署名ノ日ヨリ實施セラルベシ

外務省

(日本標準規格B5) IMT 458

313

3/4

2382

昭和 年 月 日 即チ中華民國 年 月 日
 ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

外務省

(日本標準規格B5) IMT 458 316

3/3

2382

附 屬 議 定 書
 本日日本國中華民國間友好同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員
 ハ左ノ通協定セリ
 第一條
 日本國ハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ハ日華兩國間ノ全般的平和克
 服シ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍
 隊ヲ撤去スベキコトヲ約ス
 日本國ハ清國廢和團事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵
 權ヲ放棄スルコトヲ聲明ス
 第二條
 本議定書ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ
 右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

外務省

(日本標準規格B5) IMT 458 315

REEL No. A-1209

315

交換公文案

(來翰譯文)

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間友好同盟條約ニ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ヘ日華兩國間ノ全般的平和克服シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セララルベシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次日華兩國間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

本官ハ閣下ニ於テ右ノ了解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

中華民國 年 月 日 二於テ

外務省

(日本標準規格 B5)

IMT 458

317

316

交換公文案

(往翰)

以書翰啓上致候本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候

本日中華民國日本國間友好同盟條約ヲ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候

現ニ中華民國ニ存在セル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調整ヲ要スルモノハ大東亞戰爭終了シタルトキ又ヘ日華兩國間ノ全般的平和克服シ戰爭狀態終了シタルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セララルベシ

戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次日華兩國間ノ協議ニ依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス

本使ハ茲ニ前記ノ了解ヲ確認致候

右回答旁々本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

昭和 年 月 日 二於テ

外務省

(日本標準規格 B5)

IMT 458

318

日華基本條約改訂同盟條約締結要綱案

昭和十八年九月十八日
大本營政府連絡會議決定(案)

一、改訂ノ目的

對支處理根本方針ヲ徹底具現シ以テ支那問題解決ノ爲必要ナル政略態勢ヲ強化スルニ在リ

二、條約改訂ノ時機

條約改訂ノ日本側ニ於ケル準備ハ九月中旬迄ニ之ヲ完了スルコトヲ目途トシ爾後好機ヲ捉ヘ改訂ヲ實施ス

三、條約内容ノ檢討

新條約ハ前記改訂目的ニ照シ日華基本條約及其ノ附屬ノ諸取極ニ代ハルヘキ同盟條約ヲ以テ日華新關係ノ要旨ヲ簡潔ニ明示ス

戰爭間ニ於ケル兩國ノ戰爭完遂ニ付テノ協力關係ハ日華共同宣言ニ依ルモノトシ新條約中ニ右共同宣言ヲ確認スル條項ヲ設ク

(一) 軍事關係事項ノ處理

戰時中ニ於ケル駐兵ハ日華共同宣言ニ依ルモノトシ戰後ニ於ケル大東亞防衛上執ルヘキ措置ニ關シテハ新條約ニ於テハ特ニ律セサルモ戰後別途協議ス

(1) 駐兵權

(イ) 華北、蒙疆ニ於ケル防共駐屯(基本條約第三條)、共通ノ治安維持ヲ必要トスル間ノ治安駐屯(基本條約第四條)並ニ艦船部隊ノ駐留(基本條約第五條、附屬祕密協約第一條)等防共、治安、慣例等ニ基ク駐兵權ハ之ヲ要求セス

320

2382

4

(二)各地特殊注ノ處理

軍事上乃至經濟上緊密ナル合作ヲ要スル特殊地帯トシテ制約シ
 アリタル蒙疆、華北、揚子江下流地域及華南沿岸島嶼ニ關スル
 事項ハ之ヲ廢止シ各地別ニ之ヲ約定スルコト無シ

(1)戰爭期間中ノ軍事上ノ諸要請ニ關シテハ三、(一)ノ(3)ニ依ル
 モノトス

(四)重要國防資源ノ開發利用ニ關シテハ一般經濟提携ノ一部トシ

IMT 458

322

ノトシ現實ノ軍事的諸要請ニ對シテハ支障ヲ及ボス如キコト
 無カラシム

(4)軍事顧問

中國側ノ要請ニ基キ派遣スルコトトシ特ニ條約ニ於テ律セサ
 ルモノトス

319

2382

8

(2)撤兵

兩國間ノ全面和平克復シ戰爭狀態終了シタル時ハ完全ナル撤
 兵ヲ斷行スルコトヲ明示ス但シ全面和平後依然大東亞戰爭繼
 續スル場合ニ於テハ日華共同宣言ニ基キ戰爭完遂ノ爲ノ軍事
 協力ヲ確保ス

(3)駐兵間ノ軍事要求權ト便宜供與

駐兵權ヲ要求セサル以上附屬祕密協定第二條竝ニ祕密交換公
 文第二ノ甲及第三ノ五ノ規定ハ當然之ヲ必要トセス戰爭期間
 中必要ナル軍事上ノ要求及便宜供與ハ日華共同宣言ニ依ルモ

(四)北清事變最終議定書ニ基キ駐兵權ハ之ヲ拋棄ス

IMT 458

321

322
6

2382

(四) 經過的調整事項ノ處理

要請ニ應セシム

特殊事態ノ調整ハ(附屬議定書第一條第二項)及臨時政府・維新政府等ノ辨シタル事項(附屬議定書第二條)ノ調整ニ關シテハ戰後新條約ノ趣旨ニ基キ根本的ニ調整ヲ加ヘラルヘキハ當然ナルモ戰爭期間中ハ日華共同宣言ノ本旨ニ照シ軍事上經濟上ノ諸要請ニ支障ヲ與ヘサル様差當リ對支處理根本方針ニ基キ豫期シアル調整ヲ目途トス

(五) 善隣友好及大東亞ノ建設

善隣友好ニ關スル事項ハ現行條約ノ趣旨ヲ存置シ更ニ大東亞ノ共同ノ建設ニ對スル協力ニ付律シ置クモノトス

IMT 458

324

321
5

2382

(三) 經濟關係事項ノ處理

兩國ハ互惠ヲ基調トスル緊密ナル經濟提携ヲ行フ如ク律シ特ニ戰爭期間中ニ於ケル重要資源ノ開發利用ニ關シテハ充分帝國ノ

(四) 政治的特殊性

戰後支那側ノ內政問題トシテ處理セシムルモ戰爭期間中ニ於ケル調整ニ付テハ帝國ノ軍事上及經濟上ノ諸要請ニ障害ヲ與ヘサル爲現狀ニ急激且廣汎ナル變化ヲ與フル如キコト無キモノトシ差當リ對支處理根本方針ニ基キ豫期シアル調整ヲ目途トス

IMT 458

323

2382

（内其ノ他ニ關スル事項）

- (1) 一般顧問及職員ニ付テハ軍事顧問ニ準スルモノトス
- (2) 外交事項（附屬祕密協定第一條、議事錄拔萃第三條）及文化提携（條約第二條）ハ善隣友好關係ニ基ク一般提携事項ノ一部ト見做シ特別ニ規定セス
- (3) 治外法權（條約第七條）、損害補償及難民救済（議定書第四條）ニ付テハ規定ヲ與セサルモノトス

備考

從來現地ニ於テ支那側トノ間ニ取極メタル事項ニ付テハ成ルヘク速カニ中央ニ於テ一括調査ノ上所要ニ應シ同一步調ヲ以テ調整スル如ク措置スルモノトス

IMT 458

325

2382

極秘

政府第一號

日本國中華民國間同盟條約案

昭和十八年九月十八日
大本營政府連絡會議了案

大日本帝國政府及中華民國國民政府ハ兩國相互ニ善隣トシテ其ノ自主獨立ヲ尊重シツテ緊密ニ協力シテ道義ニ基ク大東亞ヲ建設シ以テ世界全般ノ平和ニ貢獻センコトヲ期シ之ヲ障害タル一切ノ禍根ヲ拔除スルノ確乎不動ノ決意ヲ以テ左ノ通協定セリ

第一條

日本國及中華民國ハ戰爭完遂ニ付テハ協力ニ關スル日華共同宣言ヲ茲ニ嚴肅ニ再確認ス

第二條

日本國及中華民國ハ兩國間ニ永久ニ善隣友好ノ關係ヲ維持スル爲相互ニ其ノ主權及領土ヲ尊重シツテ各般ニ互リ互助敦睦ノ手段ヲ講ズベシ

第三條

IMT 458

326

326

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本條約ニ署名
調印セリ

昭和 年 月 日即チ中華民國 年 月 日
ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

325

日本國及中華民國ハ大京亞ヲ建設ノ爲相互ニ緊密ニ協力スベシ

第四條

日本國及中華民國ハ互意ヲ基調トスル兩國間ノ緊密ナル經濟提携ヲ
行ツベシ

第五條

本條約ノ實施ノ爲必要ナル細目ハ兩國當該官憲間ニ協議決定セラ
ルベシ

第六條

昭和十五年十一月三十日即チ中華民國二十九年十一月三十日調印ノ
日本國中華民國間基本關係ニ關スル條約ハ其ノ一切ノ附屬文書ト共
ニ本條約及附屬文書ニ依リ代ラルベキモノトス

第七條

本條約ハ署名ノ日ヨリ實施セララルベシ

328

2382

ニ於テ日本文及漢文ヲ以テ本書各二通ヲ作成ス

TMT 458

330

329

2382

附 屬 議 定 書

本日日本國中華民國間同盟條約ニ署名スルニ當リ兩國全權委員ハ左ノ通協定セリ

第一條

日本國ハ兩國間ノ全般的平和克服ノ戰爭狀態終了シタルトキハ中華民國ニ派遣セラレタル日本國軍隊ヲ撤去スベキト約ス
日本國ハ清國義和團事變ニ關スル北京議定書及關係書類ニ基ク駐兵權ヲ拋棄スルコトヲ聲明ス

第二條

本議定書ハ條約ト同時ニ實施セララルベシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ署名調印セリ

昭和 年 月 日 即チ中華民國 年 月 日

IMT 458

329

2382

(往翰)

交換公文案

以書翰啓上致候本日附貴翰ヲ以テ左記ノ趣御申越相成敬承致候
 本日中華民國日本國間同盟條約ヲ署名スルニ當リ本官ト閣下トノ
 間ニ左ノ了解成立致候
 現ニ中華民國ニ存在セル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ
 調整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シ
 タルトキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラレベシ
 戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ
 依リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス
 本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレシコトヲ希望致候
 本使ハ茲ニ前記了解ヲ確認致候
 右回答旁本使ハ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
 昭和 年 月 日 於テ

330

IMT 458

2382

(來翰譯文)

交換公文案

以書翰啓上致候陳者本日中華民國日本國間同盟條約ニ署名スルニ當
 リ本官ト閣下トノ間ニ左ノ了解成立致候
 現ニ中華民國ニ存在スル既成ノ事項ニシテ本條約ノ趣旨ニ鑑ミ調
 整ヲ要スルモノハ兩國間ノ全般的平和克復シ戰爭狀態終了シタル
 トキ本條約ノ趣旨ニ準據シテ根本的ニ調整セラレベシ
 戰爭狀態繼續中ト雖モ情況之ヲ許スニ應ジ逐次兩國間ノ協議ニ依
 リ本條約ノ趣旨ニ準據シテ所要ノ調整ヲ行フモノトス
 本官ハ閣下ニ於テ前記了解ヲ確認セラレシコトヲ希望致候
 本官ハ茲ニ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具
 中華民國 年 月 日 於テ

329

IMT 458